

令和7年度 京都府教育委員会への要望書



Thank You for your smile

笑顔あふれるこのまちで
これまでも、これからも。

KUMIYAMA TOWN

久御山町

全国一番の子育て環境のまちづくりについて

～ 教育と福祉の連携 ～

本町においては、令和6年度末に「久御山町こども計画」を策定し、この計画をもとに、こども施策を統一的に実施していきます。

その中でも、教育委員会では、様々な家庭環境や生活状況がある中、子どもを取り巻く環境をよりよいものとするために、こども園、小・中学校における**給食費の無償化**や**新入生学用品費補助**などの保護者負担軽減施策を進めています。

また、「言語力の育成」や「自己指導能力の育成」を柱とした0歳から15歳までの久御山学園園小中一貫教育の取組の中で、学力向上に向けた指導・支援を進めます。特に、本年度は、継続した学びが学習習慣の定着や学習意欲の向上、さらには自信醸成となり、学力向上のみならず自己実現できる力の育成につなげる「ゆめ☆スタ Weekly」に取り組みます。

そして、経済的格差が教育格差とならないよう、町の民生部局と協働し、**教育と福祉の連携**を全町的に推進していくための「(仮称) こどもの未来魅力化条例」を制定し、実効性のある施策を位置付ける**アクションプラン**を策定していきます。

これら施策を推進していくための連携や支援について、引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(1) 「こどもまんなか」の実現に向けた取組

子育て家庭を支えるため、地域でこどもを育てる環境づくり

(2) こども・若者・子育てのライフステージによらず行う支援

すべてのこどもたちが心身ともに健全に成長することができる環境づくり

- ・ こどもたちの家庭環境をふまえた教育支援・指導体制の充実
- ・ 小学校別室登校支援員の配置支援（不登校対策）

(3) こども・若者・子育てのライフステージごとの支援

こどもの誕生前から幼児期まで、学童期・思春期、18歳以上の若者とライフステージごとに必要な支援の実施

- ・ 生きる力をはぐくむ教育（教育力の向上）
- ・ 子育てや教育に関する経済的負担の軽減

令和7年度 京都府教育委員会への要望項目一覧

項目	所管部課
日本語指導が必要な外国にルーツをもつ児童生徒への支援について	学校教育課
小学校の専科教員の増員について	学校教育課
子どもの教育のための総合交付金による支援について	学校教育課
旧山田家住宅に係る保存・活用への支援について	生涯学習応援課

日本語指導が必要な外国にルーツをもつ児童生徒への支援について

近年、外国人労働者が急増するなか、久御山町においても人口の約1割を占めるなど、年々増加している現状です。（府内で最も高い比率）

それにあわせて、家族で来日されている方も多く、町内のこども園や小学校に入学をされる外国籍の子どもも増加しています。

また、近年、日本語をまったく話すことができない方が増加し、日本語指導や母語での支援なども難しく、転入時の手続きや懇談の際に保護者に学校の意図を理解してもらうことに苦勞しています。

久御山町のような小規模な自治体においては、児童生徒数も少なく日本語指導加配を配置することも難しい中、通訳ボランティアなどの人材もなかなか見つけられず、英語だけでなくベトナム語などになれば、さらに確保が難しい状況です。

そのため、外国にルーツをもつ児童生徒に対しての日本語指導加配などの支援をお願いいたします。

小学校の専科教員の増員について

現在、久御山町には、国より理科と外国語の専科教員を配置いただいているところです。専科教員の配置により、担任は週の指導時間が2～3時間程度削減され、その分教材研究や校務の事務作業などに時間を当てることができ、働き方改革の一端として効果を得るなど、現場教員からも、大変高い評価を得ています。

また、専科教員が入ったことにより、時間的余裕が生まれ、他の授業参観の機会にもつながり、若手教諭の授業力向上にも効果が見込める状況です。

児童数が年々減少し、学級数も減少する中、教員の年齢層も下がっています。そのような状況の中、専科教員の系統的で探求的な授業は、学習内容の理解度・定着度の向上につながるとともに、複数の教員が関わることにより多面的な生徒指導の充実を図ることができます。

今後は、現在最も授業時数の多い中学年にも、その効果を広げ、**誰一人取り残さない「子育て環境日本一」**を目指す京都府の教育のために、さらなる府独自の専科指導加配等の配置をお願いいたします。

子どもの教育のための総合交付金による支援について

久御山町の児童生徒の学力には、全国学力・学習状況調査においても、学年が上がるにつれ全国との差が顕著になるという大きな課題があります。

そのため、0歳から15歳までの園小中一貫教育に取り組む中で、学力向上に向けた言語力と自己指導能力の育成を進めています。また、町独自で小中学校には学習支援員や図書館司書、小学校にはALTを配置するなどの支援も実施しているところです。

特に今年度からは、主体的に学習したいと考えている中学生を対象に継続的な学習習慣を身につけさせるために、部活動のない毎週水曜日に「ゆめ☆スタ Weekly」（学力アップ事業）を開催し、継続した学びを通して学習意欲の向上や自信醸成へ繋げるとともに、3学期からは小学校6年生を対象に小学校の学習内容の復習を行い、中学校入学後の学習が円滑に行えるよう支援していきます。

来年度以降も、学力定着に向けて中学校とも連携し、学力向上のみならず自己実現できる力の育成にも繋げていきたいと考えています。

誰一人取り残さない「子育て環境日本一」を目指す京都府の教育のために、引き続き京都府の財政的支援をお願いいたします。

旧山田家住宅に係る保存・活用への支援について

国登録有形文化財である旧山田家住宅は、江戸時代後期の建築物であり経年による傷みが目立つため耐震性など安全面にも配慮した適切保存にあたりつつ、一層の活用に努めているところです。

令和7年度には、集落・町並みの景観も含めた伝統的建造物群保存地区化の可能性も視野に入れ、今後の運営骨子となる「保存活用計画」を策定し、その後は「国庫補助金（登録有形文化財建造物修理等事業費国庫補助）」を活用した耐震対策工事や公開活用に資する設備の整備等にあたりたいと考えております。引き続きご支援いただきますようよろしく申し上げます。